

第5章

事前キャンプ・ホストタウン交流



多摩センター地区の街路灯にアイスランド選手団を歓迎するバナーフラッグを掲出しました
右手の建物が選手団が宿泊した「LINK FOREST(リンクフォレスト)」

2018	11.29	ANOC(国内オリンピック委員会連合)総会の事前キャンプ誘致ブースでアイスランドNOC(アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会)の事務総長と多摩市の誘致担当者が名刺交換
2019	3.17	アイスランドNOC事務総長を含む3名のメンバーが国土館大学多摩キャンパス内の練習施設と多摩センター地区を視察
	8.23	アイスランド共和国オリンピック選手団が市内で事前キャンプを実施することについてアイスランドNOC、多摩市、学校法人国土館の三者間で基本合意に至り、「覚書締結式」を駐日アイスランド大使館で開催
	8.24-25	アイスランドNOC事務総長を含む3名のメンバーが市内に宿泊し、練習施設と宿泊想定施設を視察
	9.13	アイスランド共和国パラリンピック選手団長が練習施設と宿泊想定施設を視察
	12.27	ホストタウン第17次登録において多摩市が全国の自治体で初めてアイスランド共和国のホストタウンとなったことを国が公表
2020	3.20	アイスランド共和国パラリンピック選手団が市内で事前キャンプを実施することについてアイスランドNPC(アイスランド障がい者スポーツ協会)、多摩市、学校法人国土館の三者間で基本合意に至り、電子メールの交信により「覚書」を締結
	3.24	東京2020オリンピック・パラリンピックが新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、開催時期の1年延期を決定
2021	7.18-25	新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令下、東京2020オリンピックにおけるアイスランド選手団の事前キャンプを市内で実施
	8.16-21	新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令下、東京2020パラリンピックにおけるアイスランド選手団の事前キャンプを市内で実施
	12.13	駐日アイスランド大使館において「駐日アイスランド大使館と多摩市との友好協力関係に関する覚書」を締結

ANOC 総会での邂逅

第5章

事前キャンプ・ホストタウン交流



2018年11月に東京都内で開催されたANOC(国内オリンピック委員会連合)総会の事前キャンプ誘致ブースにおいて、アイスランドNOC(アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会)の事務総長と多摩市の誘致担当者が名刺を交換しました。

練習施設として想定していた、市内に多摩キャンパスを擁する国土舘大学が受け入れ可能であったこと、アイスランド共和国が世界一男女平等な国であり、LGBTへの理解や幸福度ランキングも高く、自然豊かなエネルギー政策先進国であり、当市が取り組んでいる持続可能なまちづくり(国連の持続可能な開発目標(SDGs)を標榜)にとって、交流を進めていく上で見習うべき政策が多く見受けられることから、アイスランド選手団の誘致を進めていくことを決定し、誘致交渉が始まりました。

2019年3月にアイスランドNOC事務総長を含む3名のメンバーの市内視察を受け入れるとともに、その後行った交渉の結果、宿泊施設・練習施設的环境、選手村・大会会場へのアクセスの良さが高く評価され、同年8月に駐日アイスランド大使館でオリンピック選手団の事前キャンプ実施に関する覚書を締結するに至ったことが全国初となる同国のホストタウンを目指す契機となりました。



プロモートアイスランドより



提供:共同通信社



北極圏に近い火山と氷河の国アイスランド共和国

概要

正式国名:アイスランド共和国 Lydveldid Island

国旗:海の青に氷河を表す白十字と火山の火を表す赤の十字

国歌:賛歌 Lofsöngur

面積:10万3000km²[北海道と四国をあわせた大きさ]

人口:364,134人[2020年1月アイスランド統計局]

首都:レイキャビク Reykjavik

元首:グズニ・ヨハネソン(Guðni Jóhannesson)大統領(2016年6月~)

政体:共和制

民族構成:アイスランド人96.5%

宗教:80%以上がプロテスタント[福音ルーテル派]

時差:日本時間-9時間

日本からのフライト時間:日本からの直行便はない コペンハーゲンやヘルシンキ、ロンドンなどヨーロッパ諸都市を経由する 所要約17~21時間[2020年1月時点]

アイスランドNOCの事前キャンプ視察 〈2019.3.17〉

東京2020大会の競技施設等視察のため、来日中のアイスランドNOC(アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会)のリネイ・ラット・ハルドルスドットィル事務総長を含む3名のメンバーが事前キャンプの視察を兼ねて初めて多摩市を訪れました。多摩市での滞在が2時間以内という制約の下、国士舘大学多摩キャンパス内の練習施設と多摩センター地区を視察。宿泊施設・練習施設の環境や、選手村・大会会場へのアクセスの良さを体感していただきました。



国士舘大学角田直也副学長がアイスランドNOC事務総長と名刺交換



国士舘大学多摩キャンパス内「陸上競技場」



国士舘大学多摩キャンパス内「柔道場」



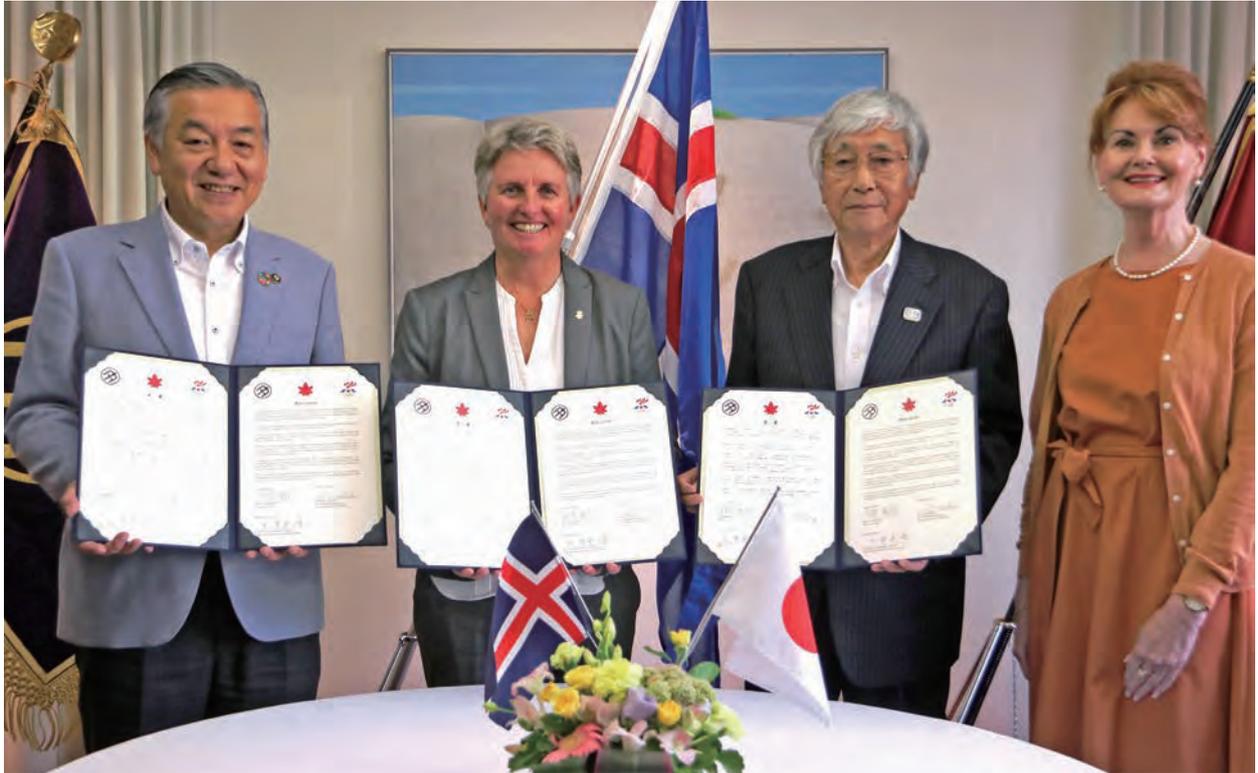
多摩センターパルテノン大通り十字路



アイスランドNOCメンバーと多摩市関係者による記念撮影(パルテノン多摩大階段下)

アイスランド共和国オリンピック選手団の事前キャンプ 実施に関する覚書締結 〈2019.8.23〉

東京2020オリンピック競技大会の期間前及び期間中に、アイスランド共和国オリンピック選手団が本市でキャンプを実施することについて、アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会(以下「ISI」といいます。)、多摩市、学校法人国士館との間で、基本合意に至り、ISI、多摩市、学校法人国士館の三者による「覚書締結式」を駐日アイスランド大使館で開催しました。



左から阿部裕行市長、リネイ・ラット・ハルドルスドットイル ISI 事務総長、大澤英雄学校法人国士館理事長、エーリン・フリーゲンリング駐日アイスランド大使



2019.8.24 練習施設等の視察途中のミーティング



2019.8.24 練習施設等の視察(国士館大学町田キャンパス内プール)



覚書締結の日に掲出された懸垂幕(聖蹟桜ヶ丘オーパ)

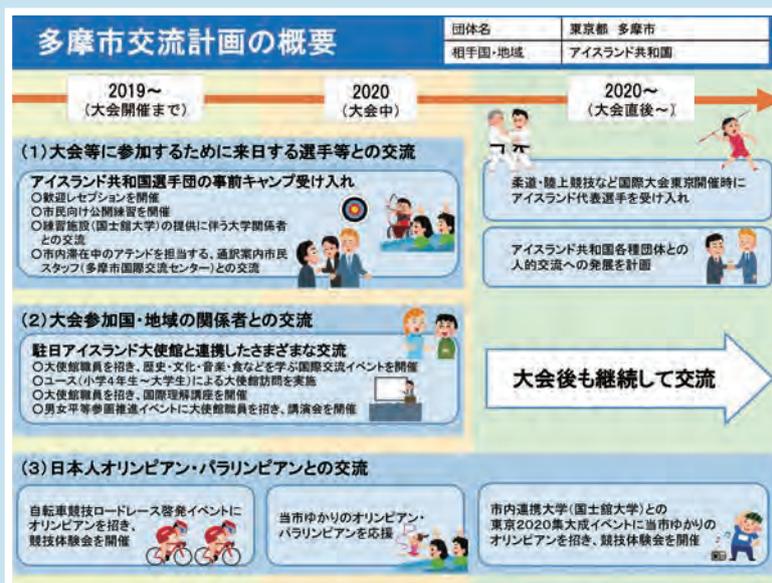
ホストタウン登録 〈2019.12.27〉

2019(令和元)年12月27日に、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部のホームページでホストタウンの第17次登録についての公表があり、多摩市が全国の自治体で初めてアイスランド共和国のホストタウンとして登録されました。

内閣官房ホームページで公表されたホストタウン登録時の多摩市の交流計画

■計画の特色

アイスランド共和国は世界男女平等ランキングで11年連続世界第1位、環境パフォーマンス指数2018では世界第11位であり、男女平等参画社会や地球と人にやさしい持続可能なまちづくりを推進する多摩市と価値観などで多くの共通点がある。2019年8月にアイスランド国立オリンピック・スポーツ協会、多摩市、学校法人国土館の三者によるアイスランド共和国オリンピック選手団の事前キャンプ実施に関する覚書を締結した。大会に参加する選手と市民らの交流を促進するとともに、大会終了後も同じ価値観を共有するアイスランド共和国各種団体との人的交流を継続・発展させる。



アイスランド共和国パラリンピック選手団の事前キャンプ実施に関する覚書締結 〈2020.3.20〉

2019(令和元)年7月下旬、駐日アイスランド大使館を通じて、東京2020アイスランドパラリンピック選手団の事前キャンプを多摩市で実施することについて打診を受けました。同年9月13日には東京2020アイスランドパラリンピック選手団長が多摩市内の練習想定施設(国土館大学多摩キャンパス・多摩市立温水プール「アクアブルー多摩」)等を視察。その後練習想定施設の利用方法をはじめ各種条件について協議を重ね、基本合意に至ったことから、電子メールの交信により覚書を締結しました。



2019.9.13 練習想定施設、工事中の宿泊予定施設を視察するパラリンピック選手団のヨウン・ビョルン・オラフソン団長



オリンピック選手団事前キャンプ 〈2021.7.18-25〉

事前キャンプの概要

東京2020オリンピックにおけるアイスランド選手団の事前キャンプは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令下、国のガイドラインに基づく感染防止対策に万全を期して実施しました。

7月18日に競泳女子200m&100m自由形のスナイフリードゥル・ソル・ヨウルナルドッティル選手を含む競泳チーム5名が多摩市入りし、次いで7月20日に陸上競技男子円盤投げのグズニ・ヴァルル・グズナソン選手を含む陸上競技チーム3名が合流、総勢8名でLINK FOREST(リンクフォレスト)に宿泊。競泳チームは国土舘大学町田キャンパスで、陸上競技チームは国土舘大学多摩キャンパスでそれぞれ練習を行い、時差や日本の高温多湿の気候に順応するためのコンディションづくりに汗を流しました。

多摩市でのキャンプ日程を終えた選手団は、7月22日に競泳チーム、7月25日に陸上競技チームの順に無事選手村へ入村。選手団からは『練習施設も宿泊施設も食事も素晴らしかった。皆様のおもてなしに感謝する。今後の交流についても継続的に実施していきたい。』とのコメントをいただきました。

<感染防止対策>

1 選手等の行動範囲	<ul style="list-style-type: none"> 各種施設内(宿泊施設・練習施設)は選手専用エリアに限定。個別の外出は不可(一般利用者也選手専用エリアへは立ち入り禁止) 施設間の移動は専用車両(借上バス)で移動 ※練習施設についても同様の対応
2 新型コロナウイルス感染症に関する検査	<ul style="list-style-type: none"> 選手等及び事前キャンプ関係者のうち選手等との接触度合いが高い者(アテンド者、通訳等)は毎日抗原定量検査を行う 選手等との接触度合いが低い者は、選手等との合流時、合流期間中必要な頻度(4日または7日に一度)、離脱時に抗原定量検査を行う
3 宿泊場所での感染対策	<ul style="list-style-type: none"> 一般利用者との利用エリア及び動線の分離(出入口、エレベーター、階段、宿泊室、食事会場等) 館内の換気は施設の空調による常時換気(窓やドアなどは施設の設備上、開放不可) 毎日の検温と消毒の徹底 一般利用者と選手団双方が間違っても互いのエリアに入ることがないように、館内に表示サインを掲出 対応者の体調管理の徹底 フィジカルディスタンスの確保
4 選手への対応	<ul style="list-style-type: none"> 市職員と業務委託先の旅行代理店スタッフ(通訳案内士含む)が選手団のアテンドを行う
5 体調管理	<ul style="list-style-type: none"> 選手団及び事前キャンプ関係者は選手入国14日前より体調チェックシートによる記録を実施
6 ワクチン接種状況	<ul style="list-style-type: none"> 選手団は本国または滞在国内でワクチンを接種済み 選手団の対応にあたる市職員、旅行代理店関係者(通訳案内士含む)もワクチン接種済み

<交流事業の実施>

さまざまな感染防止対策に万全を期す必要性から、選手団と市民との交流は残念ながら叶いませんでしたが、試行錯誤の中、次の取組を実施しました。

1 YouTube多摩市公式チャンネルでの動画公開	<ul style="list-style-type: none"> 2名の選手が多摩市に滞在していた7月21日に、選手団8名(うち選手2名)、選手村に滞在中の選手団長、駐日アイスランド大使と市長をオンラインで結び、選手団と市長のオンライン交流会を実施しました。その動画を後日YouTube多摩市公式チャンネルにて公開しました。 選手団の「多摩市での事前キャンプの様子」動画をYouTube多摩市公式チャンネルにて公開しました。
2 ホームページ・SNSを活用した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 代表選手4名の出場競技とテレビ放映日程を多摩市公式ホームページへ掲載するとともに、多摩市公式Twitterに一覧を投稿しました。また、事前キャンプ中の「選手の日常」をほぼ毎日多摩市公式Twitterや多摩市公式Instagramへ投稿し、情報発信を行いました。
3 応援メッセージとスタッフらによる見送り	<ul style="list-style-type: none"> 滞在最終日の7月25日に市民から募集した選手への応援メッセージ52件を英訳し、選手団へ直接手渡しました。 選手団が選手村に向かう際には、バスで出発する選手らを市職員、宿泊施設スタッフらで見送りました。



宿泊施設に到着した選手団(競泳チーム)



食事の様子(競泳)
スナイフリードゥル・ソル・ヨウルナルドッティル選手



競泳チーム



移動中のバス車内の様子

陸上競技チーム



練習の様子
競泳女子200m&100m自由形代表
スナイフリードゥル・ソル・ヨゥルンナルドゥティル選手



練習&クールダウン(アイスバス)の様子、練習会場へ掲出した横断幕
陸上競技男子円盤投げ代表
グズニ・ヴァルル・グズナソン選手



選手団×市長のオンライン交流会(競泳チーム&陸上競技チーム)



市職員、宿泊施設スタッフらによる見送り(陸上競技チーム)

アイスランドオリンピック選手団長による市長表敬訪問〈2021.8.9〉

アイスランドオリンピック選手団のアンドリ・ステファンソン団長は、入国後直接選手村へ入村し、陣頭指揮を執ったため、多摩市内で行われた事前キャンプに参加することができませんでした。大会が終了し、帰国する直前に、ステファン・ホイクル・ヨハネソン駐日アイスランド大使とともに、多摩市役所を訪れ、阿部裕行市長へコロナ禍の中、選手たちを受け入れてくれたことに対して、お礼の言葉を述べられました。



多摩市役所の国旗・市旗掲揚ポールに、日本国旗・多摩市旗とともに、アイスランド国旗が初めて掲揚されました。



オリンピック選手競技写真



スナイフリードゥル・ソル・ヨゥルンナルドゥティル選手
2021.7.26 競泳女子200m自由形
写真提供:Simone Castrovillari / 共同通信イメージズ



アントン・スヴェイン・マッキー選手
2021.7.27 競泳男子200m平泳ぎ
写真提供:ロイター=共同

グズニ・ヴァルル・グズナソン選手
2021.7.30 陸上男子円盤投げ
写真提供:ロイター=共同



2021.7.23
東京オリンピックの開会式で入場行進する
アイスランド代表選手 ギリシャ、難民選手団に
続き3番目に入場 写真提供:ロイター=共同



選手村でのアウスゲイル・シグルゲイルソン選手
射撃男子10mエアピストル個人に出場
写真提供:駐日アイスランド大使館 Twitter 公式アカウント

★=アイスランド共和国国内新記録

氏名	出場種目	結果
アントン・スヴェイン・マッキー選手	競泳男子200m平泳ぎ	予選24位
アウスゲイル・シグルゲイルソン選手	射撃男子10mエアピストル個人	予選28位
グズニ・ヴァルル・グズナソン選手	陸上競技男子投てき 円盤投	予選のみ (結果なし)
スナイフリードゥル・ソル・ヨゥルンナルドゥティル選手	競泳女子200m自由形	★予選22位
	競泳女子100m自由形	予選34位

パラリンピック選手団事前キャンプ 〈2021.8.16-21〉

事前キャンプの概要

東京2020パラリンピックにおけるアイランド選手団の事前キャンプは、オリンピック選手団と同様、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令下、国のガイドラインに基づく感染防止対策に万全を期して実施しました。

8月16日にパラ陸上競技選手2名、パラ自転車競技(ロード)選手1名、パラ水泳選手3名を含む総勢16名が多摩市入りし、LINK FOREST(リンクフォレスト)に宿泊。パラ陸上競技選手は多摩市立陸上競技場及び国土舘大学多摩キャンパススポーツパフォーマンスセンターで、パラ自転車競技(ロード)選手は多摩市立陸上競技場で、パラ水泳選手は多摩市立温水プール「アクアブルー多摩」及び国土舘大学多摩キャンパススポーツパフォーマンスセンターで、それぞれ練習を行い、時差や日本の高温多湿の気候に順応するためのコンディションづくりには汗を流しました。

多摩市でのキャンプ日程を終えた選手団は、8月21日に無事選手村へ入村。選手団からは『練習施設も宿泊施設も食事も素晴らしかった。皆様のおもてなしに感謝する。また、さまざまなレクリエーションについても楽しむことができました。』とのコメントをいただきました。



パラ陸上競技チーム 多摩市立陸上競技場にて撮影。写真左から3人目がパトリック・アンドレス・アクセルソン選手(視覚障がい)、同5人目がベルグリン・オスク・アーダルスティンズドットティル選手(脳性まひ)



パラ自転車競技(ロード)チーム 多摩市立陸上競技場にて撮影。写真左がアルナ・シグリッドゥル・アルベルツドットティル選手(下肢重度障がい)



パラ水泳チーム

多摩市立温水プール・アクアブルー多摩にて「We The 15」(*)のTシャツをチーム全員が着用して撮影

写真左から2人目がテルマ・ビョルク・ビヨルンズドットティル選手(肢体不自由)、同3人目がマウル・グンナルソン選手(視覚障がい)、同右端がローベルト・イサーク・ヨハンソン選手(知的障がい)

(※)パラリンピック開幕まであと5日に迫った2021年8月19日、国際パラリンピック委員会は、世界の人口の約15%、12億人とされる障がいのある方の人権を守る新たなキャンペーン「We The 15」の立ち上げを発表しました。



食事はフィジカルディスタンスを確保し、一方向を向きながらの黙食



練習の様子(パラ水泳チーム)

<交流事業の実施>

感染防止対策を最優先し、オリンピック選手団の事前キャンプでは実施できなかった、選手団と多摩市民のオンライン交流会、公開練習見学、日本を体験するレクリエーションなどをはじめ、次の取組を実施しました。

1 オンライン交流会	・8月17日に、選手団7名(選手団長+選手6名)と多摩市民(申込27件、最大同時接続数20件)のオンライン交流会をライブで実施し、4名の市民と選手団との間で質疑応答が行われました。
2 公開練習見学	・8月18日に、多摩市立陸上競技場でパラ陸上競技選手(2名)とパラ自転車競技(ロード)選手(1名)の公開練習を実施。事前申込みのあった市民79名が来場し、練習の様子をスタンドで見学していただきました。
3 YouTube多摩市公式チャンネルでの動画公開	・オンライン交流会のライブ動画を後日YouTube多摩市公式チャンネルにて公開しました。 ・選手団の「多摩市での事前キャンプの様子」動画をYouTube多摩市公式チャンネルにて公開しました。
4 ホームページ・SNSを活用した情報発信	・代表選手6名の出場競技とテレビ放映日程を多摩市公式ホームページに掲載するとともに、多摩市公式Twitterに一覧を投稿しました。また、事前キャンプ中の「選手の日常」をほぼ毎日多摩市公式Twitterや多摩市公式Instagramへ投稿し、情報発信を行いました。
5 日本を体験するレクリエーション	・選手団が滞在中に日本を体験するレクリエーション(居合道・夏祭り・書道)を実施しました。
6 応援メッセージとスタッフらによる見送り	・滞在最終前日の8月20日に公開練習見学者から募集した選手への応援メッセージ49件を英訳し、選手団へ直接手渡しました。 ・選手団が選手村に向かう際には、バスで出発する選手らを市職員、宿泊施設スタッフらで見送りました。



選手団×多摩市民のオンライン交流会



公開練習(見学者席)

ヨウン・ビヨルン・オラフソン選手団長による公開練習見学者への挨拶と参加選手紹介

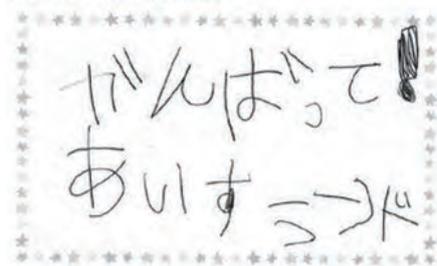


公開練習[パラ陸上競技(視覚障がい)・パラ陸上競技(脳性まひ)・パラ自転車競技(四肢重度障がい)]



日本を体験するレクリエーション(居合道・夏祭り・書道)

メッセージは英訳して選手にお届けします♪



公開練習見学者からの応援メッセージ



市職員、宿泊施設スタッフらによる見送り(選手村行きバス乗車直前)

パラリンピック選手競技写真



2021.8.31 ローベルト・イサーク・ヨウンソン選手
水泳男子200m個人メドレー SM14 写真提供:共同通信社

★=アイスランド共和国国内新記録

氏名	出場種目	結果
ローベルト・イサーク・ヨウンソン選手	水泳男子100mバタフライ S14 (知的障がい)	★決勝6位
	水泳男子100m平泳ぎ SB14	予選10位
	水泳男子200m個人メドレー SM14	決勝6位
テルマ・ビヨルグ・ビヨルンズドッティル選手	水泳女子100m平泳ぎ SB5 (肢体不自由)	決勝8位
	水泳女子400m自由形 S6	予選13位
マウル・グンナルソン選手	水泳男子50m自由形 S11 (視覚障がい)	予選13位
	水泳男子100m背泳ぎ S11	★決勝5位
	水泳男子200m個人メドレー SM11	決勝8位
	水泳男子100mバタフライ S11	予選11位
ベルグリン・オスク・アーダルスティンズドッティル選手	陸上競技女子砲丸投 F37 (脳性まひ)	★7位
	陸上競技女子走幅跳 T37	8位
パトレクル・アンドレス・アクセルソン選手	陸上競技男子400m T11 (視覚障がい)	★予選7位
アルナ・シグリドゥル・アルベルツドッティル選手	自転車競技女子タイムトライアル H3 (下肢重度障がい)	11位
	自転車競技女子ロードレース H3	15位



2021.8.24 東京パラリンピックの開会式で入場行進するアイスランド代表選手 難民選手団に続き2番目に入場 写真提供:共同通信社

第5章 事前キャンプ・ホストタウン交流



2021.8.27 マウル・グンナルソン選手 水泳男子50m自由形 S11 写真提供:ロイター=共同



2021.8.28 テルマ・ビヨルグ・ビヨルンズドッティル選手
水泳女子100m平泳ぎ SB5 写真提供:共同通信社



2021.9.1 アルナ・シグリドゥル・アルベルツドッティル選手
自転車女子 H1-4 ロードレース 写真提供:共同通信社



2021.8.28 ベルグリン・オスク・アーダルスティンズドッティル選手
陸上女子砲丸投 F37 写真提供:共同通信社



2021.8.28 パトレクル・アンドレス・アクセルソン選手
陸上男子400m T11 写真提供:共同通信社

ホストタウン交流事業



たま広報2019(令和元)年11月20日号2面
グズニ・ヨハネソン大統領の訪日レセプションに招待されました

アイスランド共和国に関連する交流事業は、多摩市がホストタウンとして登録された2019(令和元)年12月前後から始まりました。新型コロナウイルスの感染が拡大した2020(令和2)年の交流事業は軒並み中止や延期となりましたが、2021(令和3)年に入り、市内においても徐々に再開されるようになりました。



たま広報2020(令和2)年1月1日号1面
エーリン・フリーゲンリング駐日アイスランド大使×阿部裕行市長・田代純子副市長対談



たま広報2020(令和2)年2月20日号1面
北川靖彦駐アイスランド特命全権大使からのお祝いメッセージ

PRツール

多摩市がアイスランド共和国のホストタウンになったことを広く周知するため、さまざまなPRツールを作製し、市内各所へ展開しました。

のぼり旗



懸垂幕



ポスター



ステッカー



ミニのぼり



横断幕



■ 図書館や公民館での展示

図書館では、アイスランドにまつわる旅行書や地理・歴史関係の本など、関連書籍の紹介をしました。〈2019年9月から2021年10月まで4館でリレー展示〉

永山公民館では、アイスランドの街並み、雄大な自然や幻想的なオーロラなどの風景写真パネルを展示しました。〈2020.6.1-10〉

また、展示された写真の紹介動画をYouTube多摩市公式チャンネルにて公開しました。



永山図書館での書籍展示「アイスランドにクローズアップ!!」



永山公民館での写真展示「多摩市がホストタウンとなったアイスランド共和国を写真で巡る旅」

■ 次期駐日アイスランド大使の多摩市訪問 〈2021.3.27〉

ステファン・ホイクル・ヨハネソン次期駐日大使(当時)が多摩市を訪問し、多摩センターで開催中のスプリングフェスタ及び事前キャンプの際の宿泊施設とその周辺を視察しました。同日午後は、多摩市国際交流センター主催の国際理解講座に講師として登壇いただきました。

▶多摩センタースプリングフェスタ・多摩センター駅周辺・宿泊施設「LINK FOREST(リンクフォレスト)」の視察



多摩センタースプリングフェスタの視察の様子



多摩市×アイスランド共和国のバナーフラッグを見上げるステ 宿泊施設「LINK FOREST(リンクフォレスト)」の視察の様子
ステファン・ホイクル・ヨハネソン次期大使

▶国際理解講座「北緯66度の国 アイスランド」開催(主催:多摩市国際交流センター)

ステファン・ホイクル・ヨハネソン次期大使が講師として登壇し、写真や動画を使いながら、3月に起きたフラグダルスフィヤル火山の噴火の様子や、世界で最もジェンダー格差が少ない国とされるアイスランド共和国の社会背景、豊かな自然エネルギーについてなど、わかりやすく紹介してくださいました。参加された皆さんからは、アイスランドの取組に対する素晴らしさや、末永い交流を望む声を数多くいただきました。



■ 市立小・中学校と駐日アイスランド大使館の交流会を開催

駐日アイスランド大使館協力のもと、国際交流・国際理解の一層の推進を目的に、同大使館の商務・広報担当官保坂亮介氏を講師としてお招きし、市立小・中学校の児童・生徒との交流会を開催しました。

▶ 豊ヶ丘小学校〈2021.1.22〉

5年生の児童がアイスランドについて事前学習で調べた内容を発表。児童は講師の話に興味津々に聞き、また質問コーナーでは時間が足りなくなるほどたくさん質問をしていました。6年生の児童は総合的な学習の時間に取り組んでいる学校林について動画で発表した後、講師を林の中へ案内しました。児童たちは講師へ自然環境や社会問題など、専門的な質問をしていました。



▶ 西落合小学校〈2021.2.8〉

5・6年生の児童に向けてお話いただきました。質問コーナーでは児童ならではの視点からたくさんの質問が飛び交い、にぎやかで充実した交流会となりました。



▶ 和田中学校〈2021.3.4〉

2年生の生徒に向けてお話いただきました。有名なアーティストのプロモーションビデオや映画のロケーションに使われた場所が紹介されると、生徒の皆さんはより関心を持ってアイスランドの風景を楽しんでいました。



▶ 瓜生小学校〈2021.7.9〉

6年生の児童に向けてお話いただきました。念入りに事前学習をしてきたという児童からはさまざまな質問が飛び出し、活気あふれる交流会となりました。「アイスランドでも小学生の間では人狼ゲームが流行っている」という紹介があると、「一緒にやってみよう!」と、さらに交流への興味を深めた様子が印象的でした。



■ 多摩市×アイスランド共和国 ホストタウン記念&多摩市市制施行50周年記念 フレーム切手発売 〈2021.6.18〉

多摩市がアイスランド共和国のホストタウンとして登録



されたこと及び多摩市が市制施行50周年を迎えることを記念して、オリジナルフレーム切手を作成しました。切手には、アイスランドの美しい風景や名所、多摩市の代表的な風景がデザインされています。500シート作成しましたが、好評のうちに早々に完売しました。

■ アイスランドWEEK 〈2021.6.21-30〉

アイスランドの独立記念日である6月17日にちなみ、アイスランドの写真展・ブックフェアの開催や物産品(アイスランドの乳製品など)・フレーム切手の販売などが行われました。(主催:多摩センター夏まつり実行委員会)



駐日アイスランド大使館と多摩市との友好協力関係に関する覚書締結 (2021.12.13)

駐日アイスランド大使館で「覚書締結式」を開催

2019(令和元)年12月、多摩市は全国の自治体として初めてアイスランド共和国のホストタウンとして登録されました。アイスランドと多摩市は男女平等、再生可能エネルギーと持続可能な開発など、その取組の中で多くの共通点を有します。

1年延期された東京2020大会においてアイスランドのオリンピック並びにパラリンピック選手団の事前キャンプを多摩市内で実施しました。また、多摩市市制施行50周年、駐日アイスランド大使館開設20周年を同時に迎えるという両者にとって記念すべき年でもあります。

駐日アイスランド大使館と多摩市は、現在及び将来に向けて、スポーツ、文化、教育、ビジネス等の分野において実施する、イベント、プログラム等(以下「ホストタウン事業」といいます。)を通じて、さまざまな交流を育てることで、両者の良好な関係と友好を深めることを目指し、「駐日アイスランド大使館と多摩市との友好協力関係に関する覚書」を締結しました。



覚書署名後、写真撮影に応じるステファン・ホイクル・ヨハネソン大使(左) 阿部裕行市長(右)



覚書へ署名中の大使と市長



握手の代わりにエルポータッチを交わす大使と市長



駐日アイスランド大使館・多摩市関係者による記念撮影 (写真左から)ハルドル・エリス・オラフソン商務官 ステファン・ホイクル・ヨハネソン大使 阿部裕行市長 田代純子副市长

覚書締結後のホストタウン事業

区分	事業名	内容
恒常事業	男女平等社会の実現に向けた啓発と対話	多摩市の男女平等に関する施策を支援するため、アイスランドの事例を調査し共有する。また将来アイスランドの団体や組織との直接交流を計画する。
	多摩市とアイスランドとの教育交流	アイスランドと多摩市の学校間の交流プログラムを計画する。
	アイスランドの紹介	多摩市の担当部署のイベント開催時にアイスランドの取組事例を紹介する。
定期事業	アイスランド・ウィーク	毎年9日間アイスランドについて理解し学ぶ恒例行事を開催する。(アイスランド独立記念日6月17日の週の7日間(日曜日から土曜日)。当該週の前後の週末2回を含む。)
	多摩市立図書館におけるアイスランド関連資料の収集・展示	多摩市民にアイスランドについて学ぶ機会を提供するために、関連資料の収集と定期的に展示を行う。
	覚書締結を記念した周年事業	5、10、20年等、節目の年のアイスランド・ウィーク中に、周年記念事業を開催する。
	オリンピック・パラリンピック開催時におけるアイスランド出場選手の応援	オリンピック・パラリンピック競技大会(夏季・冬季)の開催時に、アイスランド出場選手の紹介及び応援事業を開催する。
臨時事業	大使離着任時及び市長就退任時の表敬訪問	大使の離着任時及び多摩市長の就退任時に、多摩市役所、駐日アイスランド大使館を相互に表敬訪問
	日本国内でのアイスランド文化イベント	アイスランドから来日するアーティストによる文化パフォーマンスや展示を多摩市の「バルテノン多摩」等の場所で開催する。
	アイスランドスポーツ選手来日時における支援及び交流	来日するアイスランドのアスリートにトレーニング施設を提供し、多摩市民との交流プログラムを開催する。
	上記以外の臨時事業	駐日アイスランド大使館と多摩市が承認した事業

台湾バドミントンチームの強化練習断念

2020(令和2)年2月、多摩市と台湾バドミントン協会は、台湾バドミントンオリンピック代表チームの強化練習を東京2020大会の期間前・期間中の10日間、多摩市立総合体育館で実施することについて合意しました。同年3月、東京2020大会の1年延期が決定されたことに伴い、改めて2021(令和3)年7月の実施に向けて再調整を続けていましたが、新型コロナウイルス感染症対策をガイドラインどおりに実施することが困難と判断した台湾バドミントン協会から「今年7月に多摩市立総合体育館で予定していたオリンピック代表チームの強化練習を中止したい」との申し入れがありました。

■ 市内での強化練習実施合意までの経緯

• 2019(令和元)年7月29日

武蔵野の森総合スポーツプラザで開催される、ダイハツジャパンオープン2019【東京2020テストイベント】出場のため来日していた台湾バドミントンチームコーチ2名と、台北駐日経済文化代表処関係者(多摩市と台湾バドミントン協会との交渉仲介者)1名が多摩市立総合体育館を視察

• 2020(令和2)年2月

正式契約を前提として、台湾バドミントンチームの強化練習を東京2020オリンピック競技大会期間前・期間中の10日間、総合体育館で実施することについて合意が成立

合意内容 練習期間: 2020(令和2)年7月20日～29日

練習施設: 多摩市立総合体育館第1スポーツホール

来館人数: 選手6名程度。監督・コーチなどを含め20名程度の一団になる見込み

歓迎行事: 練習初日の練習開始前に開催

公開練習: 原則非公開。ただし、練習初日と練習2日目の一部の時間帯に限り市民へ公開

• 2020(令和2)年3月下旬

基本合意の内容を記載した覚書(MOU)の締結式などのセレモニーは実施せず、台湾バドミントン協会代表者との間で正式契約を締結予定



2019.7.29 多摩市立総合体育館 第1スポーツホールの視察&ミーティング



掲出が幻におわった
横断幕・懸垂幕



■ 強化練習実施の中止決定

2021(令和3)年4月13日、台北駐日経済文化代表処(大使館に相当)より、「台湾バドミントン協会は、オリンピック代表チームが今夏の東京2020大会期間前・期間中に予定していた多摩市での強化練習(事前キャンプ)の実施を取りやめ、直接選手村に入ることを決定致しました。これまでの多摩市のご支援とご協力に深く感謝しております。」との文書が届きました。

中止の理由は、「予定していた宿泊施設(多摩市外)において日本政府から示された新型コロナウイルス感染症対策をガイドラインどおりに実施することが困難と判断し、選手やコーチ等の健康と安全を考慮した結果」とのことでした。

東京2020オリンピックにおけるバドミントン競技は、日本選手のメダルが期待されており、同じく強豪である台湾選手とメダルをかけた対戦をすることも予想される注目競技でしたが、当市の総合体育館において、世界屈指のアスリートの練習を間近で見学することは叶いませんでした。